

建設経済委員会・分科会 会議記録

- 1 期 日 令和 6 年 4 月 10 日（水）
午前 9 時 23 分 開会
午前 11 時 26 分 閉会
- 2 場 所 第 3 委員会室
- 3 出 席 委 員 委 員 長 芹澤 正志
副委員長 森垣 康平
委 員 清水 寛、福田 嗣久、
前田 敦司、前野 文孝、
村岡 峰男、義本 みどり
- 4 欠 席 委 員 なし
- 5 説 明 員 （別紙のとおり）
- 6 傍 聴 議 員 なし
- 7 事 務 局 職 員 主幹兼総務係長 山本 雅彦
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

建設経済委員長・分科会長 芹澤 正志

建設経済委員会 次第

日時：2024年4月10日（水）9:30～

場所：第3委員会室

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について <別紙>

【前半】

〔観光文化部〕 観光政策課

〔コウノトリ共生部〕 農林水産課、環境経済課、コウノトリ共生課、

〔都市整備部〕 建設課、都市整備課、建築住宅課、地籍調査課

【後半】

〔振 興 局〕 城崎振興局・城崎温泉課、竹野振興局、
日高振興局、出石振興局、但東振興局

〔上下水道部〕 水道課、下水道課

〔農業委員会事務局〕 農業委員会事務局

(2) 委員会重点調査事項について<別紙1>

(3) 管外行政視察研修について

視察日程 2024年5月15日（水）～17日（金）

5 そ の 他

6 閉 会

建設経済委員会名簿(4/10)

= 欠席

【委 員】

職 名	氏 名
委 員 長	芹 澤 正 志
副委員長	森 垣 康 平
委 員	清 水 寛
委 員	福 田 嗣 久
委 員	前 田 敦 司
委 員	前 野 文 孝
委 員	村 岡 峰 男
委 員	義 本 みどり

8名

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
		観光政策課長	恵後原博美		
コウノトリ共生部長	坂本 成彦	農林水産課長	浪華 誠	農林水産課参事	村田 一紀
				農林水産課参事	山本 隆之
				農林水産課参事	西村 文紀
		環境経済課長	瀬崎 晃久		
		コウノトリ共生課長	宮垣 均		
都市整備部長	富森 靖彦	建設課長	久田 渉	建設課参事	北村 省二
				建設課参事	堀田 政司
				建設課参事	村田 光弘
				建設課参事	羽渕 浩史
		都市整備課長	堂垣 俊裕	都市整備課参事	武中 孝寛
		建築住宅課長	小川 琢郎	建築住宅課参事	吉岡 和彦
				建築住宅課参事	岡田 忠昭
		地籍調査課長	上阪 善晴		
城崎振興局長	富岡 隆	地域振興課参事	橋本 郁夫	城崎温泉課長	山田 和彦
竹野振興局長	石田 敦史	地域振興課参事	森口 佳徳		
日高振興局長	柳沢 和男	地域振興課参事	山本 慎二	地域振興課参事	上野 和則
出石振興局長	宮崎 雅巳	地域振興課参事	神谷 謙二		
但東振興局長	大岸 和義	地域振興課参事	大岸 勝也		
上下水道部長	川端 啓介	水道課長	谷垣 康広	水道課参事	大谷 賢司
				水道課参事	縄手 伸幸
		下水道課長	榎本 啓一	下水道課参事	野畑 修身
農業委員会事務局		農業委員会事務局長	安藤 洋一		

39名

【議会事務局】

職 名	氏 名
主幹兼総務係長	山本 雅彦

1名

計 48名

建設経済委員会重点調査事項

(2024.3.19 確認)

- 環境経済戦略の推進について
- 農林水産業・商工・観光・特産振興等経済支援、地域活性化施策の推進について
- 有害鳥獣対策の推進について
- 地域内幹線道路の整備促進について
- 都市計画マスタープランについて
- 公営住宅のあり方について
- 下水道事業計画及び地域水道ビジョンの推進について
- 専門職大学と演劇のまちについて
- 老朽危険空き家対策について

午前9時23分開会

○委員長（芹澤 正志） おはようございます。

それでは、皆さんおそろいになりましたようですので、これから建設経済委員会を開会いたします。

改めまして、皆さんおはようございます。ご苦労さまです。

昨日が小学校、中学校の入学式ということで、何年ぶりの桜の中で、ああ、よかったなと思いつつ天気が悪くて、そんな中でしたが、新たな年度を迎えて、新しい気持ちでやらないかなと思っております。

カメムシも相変わらずたくさん飛んでおりますし、もう何か本当に気候がというか地球がどうなっちゃうのかなというような心配もありますけども、新しいメンバーで本当にこの1年間どうぞよろしくお願いしたいと思います。

それでは、始めさせていただければと思います。

本日の委員会に当たりまして、宮崎出石振興局長と農林水産課の山本参事の欠席について申出がありましたので、許可をいたしておりますのでご了承願います。

それでは、本日の委員会ですけども、委員会室の密集をできるだけ軽減するために、当局職員の出席を前半と後半の2つのグループに分けて行いたいと思いますので、ご了承願います。

それでは、3番の自己紹介に入ります。

今回は、年度当初の委員会でありまして、4月の人事異動で当局職員に異動がありましたので、ここで改めて自己紹介をいただきたいと思います。

それでは、まず委員から自己紹介をいただきたいと思います。

改めまして、委員長の芹澤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（森垣 康平） 副委員長の森垣です。よろしくお願いいたします。

○委員（前田 敦司） 委員の前田敦司です。よろしくお願いいたします。

○委員（義本みどり） 義本です。よろしくお願いいたします。

○委員（村岡 峰男） 村岡です。よろしくお願いいたします。

○委員（福田 嗣久） おはようございます。福田と申します。よろしくお願いいたします。

○委員（清水 寛） 清水です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（前野 文孝） 前野です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（芹澤 正志） 次に、観光文化部から名簿に記載された順でお願いいたします。

○観光政策課長（恵後原博美） おはようございます。今年の4月から観光文化部観光政策課の課長となりました恵後原と申します。以前はこども支援課で7年仕事をしておりました。こちらに異動となりましたが、何かとご迷惑をおかけすると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○コウノトリ共生部長（坂本 成彦） コウノトリ共生部の坂本です。引き続きよろしくお願いいたします。

○農林水産課長（浪華 誠） おはようございます。農林水産課長の浪華です。引き続きになりますが、よろしくお願いいたします。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） おはようございます。環境経済課長、瀬崎と申します。この4月の異動で税務課のほうから参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

○農林水産課参事（村田 一紀） すみません、前後しました。農林水産課、村田と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

○農林水産課参事（西村 文紀） 失礼します。おはようございます。農林水産課の参事をしております西村といいます。この春からの担当を務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） おはようございます。コウノトリ共生課の宮垣といいます。4月からこのコウノトリ共生課に異動してまいりました。よろしくお願いいたします。

○都市整備部長（富森 靖彦） おはようございます。今年の4月から都市整備部長ということでお世話

になります富森です。委員会自体は昨年度から引き続きですので、代わり映えしませんが、よろしくお願いいたします。

○建設課長（久田 渉） 久田です。都市整備課からの横異動の建設課長ということで引き続きよろしくお願いいたします。

○都市整備課長（堂垣 俊裕） おはようございます。都市整備課長の堂垣です。引き続きよろしくお願いいたします。

○建築住宅課長（小川 琢郎） 建築住宅課長の小川です。どうぞよろしくお願いいたします。

○地籍調査課長（上阪 善晴） おはようございます。4月から地籍調査課長になりました上阪といいます。よろしくお願いいたします。

○建設課参事（北村 省二） おはようございます。建設課参事の北村と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

○建設課参事（堀田 政司） おはようございます。建設課参事、用地対策を担当してます堀田といいます。引き続きよろしくお願いいたします。

○建設課参事（村田 光弘） おはようございます。建設課参事をしてます村田といいます。引き続きよろしくお願いいたします。

○建設課参事（羽渕 浩史） おはようございます。4月から建設課の参事になりました羽渕です。よろしくお願いいたします。

○都市整備課参事（武中 孝寛） おはようございます。都市整備課参事の武中といいます。今年4月からになります。どうぞよろしくお願いいたします。

○建築住宅課参事（吉岡 和彦） おはようございます。建築住宅課参事の吉岡です。引き続きよろしくお願いいたします。

○建築住宅課参事（岡田 忠昭） おはようございます。建築住宅課参事の岡田と申します。引き続きよろしくお願いいたします。

○委員長（芹澤 正志） それでは、最後に、議会事務局、お願いします。

○事務局主幹兼事務局総務係長（山本 雅彦） 失礼いたします。この委員会の事務局を務めます、4月

に議会事務局に配属されました山本と申します。よろしくお願いいたします。

○委員長（芹澤 正志） それでは、今年度は当分の間、このメンバーで委員会審査をご対応することになりますので、よろしくお願いいたします。

なお、後半でも委員の皆さんには自己紹介していただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、1番の委員会所管事項の事務概要に入ります。

まず、前半に観光文化部、コウノトリ共生部及び都市整備部の順で、部ごとに説明、質疑を行い、後半に各振興局、上下水道部及び農業委員会事務局という形で進めたいと思います。

なお、委員の皆さん、当局の皆さん、質疑、答弁に当たりましては、くれぐれも要点を押さえて簡潔明瞭に行うなど、スムーズな議事進行に特別のご協力をお願いいたします。

また、委員会での発言では、委員長の指名の後、マイクを使用して発言者名を名のってから行っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

それでは、まず、観光文化部の説明をお願いいたします。

観光文化部観光政策課、恵後原課長、どうぞ。

○観光政策課長（恵後原博美） 事務概要を説明させていただきます。

資料3ページをご覧ください。国内誘致及び海外戦略の推進についてです。

2023年度の市内外国人観光客は、延べ宿泊者数は6万679人泊となり、コロナ前の2019年度は6万3,948人泊で、4.7%減まで回復してきております。

海外の人々が豊岡市の観光情報を容易に的確に取得できる環境を整え、認知度向上を図り、さらなる誘客に努めてまいります。

2024年度は、市内周遊や滞在期間を増やすために、豊岡にしかない価値や豊岡でしか経験できないローカルな価値を最大限活用した高付加価値な体験コンテンツ等の造成も進めてまいります。

また、観光データ基盤を活用した来訪者の動向分

析や市内周遊促進策を行い、滞在時間や訪問回数の増加を図り、市内宿泊者数及び観光消費額の増加につなげていきます。

概要については、主なもののみを説明させていただきます。

2の神鍋応援クーポン事業です。冬季雪不足による神鍋地域の深刻な経済影響を緩和するために、宿泊利用者に応援クーポン1人1泊につき1,000円を配付します。神鍋エリアの飲食店や物産店など、観光関連産業を幅広く支援していきます。

3、玄武洞公園特別イベントについてです。閑散期の集客と宿泊の促進のため、夏休み開始から9月末までの金土日祝に玄武洞をライトアップするとともに、演劇祭と同時期に特別イベントを開催する予定です。

その他の事業についてはご清覧ください。

次に、5ページの芸術文化観光専門職大学との連携についてです。

2021年に芸術文化観光専門職大学が開学して以降、地方創生の観点から大きな効果をもたらすことが期待できますので、さらに地域関連事業を深めていきたいと考えています。

2022年度からは市役所での実務実習を受け入れており、学生と地域のつながりを広めるとともに、学習内容や指導など受入れ体制の強化が必要と考えております。

概要を説明させていただきます。

1、地域連携事業の実施についてです。(7)の子どもの居場所づくりのための意識調査事業を2024年度より3年間、社会福祉課が取り組んでいきます。支援を必要とする子供に対し、ダンスを用いた表現活動をすることで子供の意識や行動の変化を調査し、子供の居場所として必要な条件を把握することを目的としています。

2、臨地実務実習の受入れについては、豊岡市役所の関係各課において、専門職大学2年生の地域創生実習及び3年生のデスティネーション実習などの臨地実務実習の受入れを行います。

次に、6ページ、豊岡演劇祭の開催支援について

です。

豊岡演劇祭2023は、プログラムを拡大し、90団体の参加の下、111プログラムを実施し、去年比5,397人増の過去最高の2万3,647人が来場し、多くの方々が楽しめました。今年度は9月6日から23日の開催に向け、準備を進められているところです。

今年度も市民ボランティアの育成や再演予定の「但東さいさい」では、地域の方々が出演者やスタッフとして関わっていただくなど、さらに市民に親しまれる地域の演劇祭として実施されるよう、開催を支援してまいります。

私からは以上です。

○委員長（芹澤 正志） 説明は終わりました。

質問等はございませんでしょうか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 直接関係があるのかどうか分からないんですが、青年団の東京のアゴラ劇場が閉鎖をするという話は聞くんですが、それがもし本当だったら、この演劇祭や豊岡のこの学校との関係は何かあるのかなと。

○委員長（芹澤 正志） 恵後原課長。

○観光政策課長（恵後原博美） こちらのほうではそのような情報はまだ受け取っておりませんので、特に検討はしておりません。

○委員（村岡 峰男） 分かりました。

○委員長（芹澤 正志） 村岡委員、よろしいですか。

○委員（村岡 峰男） はい。

○委員長（芹澤 正志） ほかがございませんでしょうか。

○委員（村岡 峰男） 情報もないんだったらしゃあないわの。

○委員長（芹澤 正志） それでは、ないようですので、次に、コウノトリ共生部の説明をお願いいたします。

コウノトリ共生部農林水産課、浪華課長。

○農林水産課長（浪華 誠） 農林水産課の事務概要を説明させていただきます。

7ページをご覧ください。農業の振興についてで

す。

現況と課題、基本方針ですが、農家戸数の減少や農業従事者の高齢化によりまして、担い手の確保というのが課題となっています。

また、資材等の高騰により生産コストが上昇する中、農業所得を確保するためにも、農地集約による生産性の向上やコウノトリ育む農法による高付加価値化に取り組む必要があると考えています。

これらに対応するため、豊岡農業スクールによる担い手の育成や各集落での地域計画策定を推進するとともに、学校給食への無農薬米をはじめとした有機農産物の提供など、有機農業の拡大に取り組む方針です。

概要についてですが、担い手の育成としまして、豊岡農業スクールを継続実施します。開校から12年目となる今年度は、入校生4名を新たに迎えまして、在校生3名と合わせて計7名が研修を行います。

また、新規就農者確保事業として、国の補助制度を活用しまして農業経営を開始する際の支援を行うほか、若手農家支援事業として農業用機械の導入等の補助を行います。

このほかにも、昨年度に法定化されました地域計画策定の推進や鹿の捕獲、年間6,500頭を目標に引き続き有害鳥獣対策を推進します。

また、昨年4月に策定しました有機農業実施計画に基づきまして、2027年度を目標に学校給食用米の無農薬米への全量転換を進めるほか、提供に必要となる90トンの無農薬米つきあかりを確保できるよう、増産に向けて補助金による支援を行います。

続きまして、8ページをご覧ください。農業用施設管理及び基盤整備促進事業についてです。

市が直接管理しています広域基幹農道の維持管理と土地改良事業など、農業者の皆様の要望にお答えするための事業を進めています。

概要をご覧ください。

1つ目の北但地区農道橋耐震化及び長寿命化事業です。事業主体は兵庫県になります。耐震化事業については、新田橋の橋脚補強と蓼川大橋と新田橋

の落橋防止を実施します。

また、長寿命化事業としまして、蓼川大橋の鋼材部などの塗装や新田橋の支承工事を行います。

2つ目の田鶴野排水路整備事業については、こちらも事業主体は兵庫県となります。計画総延長は1,273メートルを予定しておりまして、2027年度の事業完了を予定しています。本年度はこのうち約200メートルの排水路改修を予定しています。

3つ目以降は、市が事業主体となります。基幹農道トンネルLED化事業です。市が直接管理しております基幹農道には4か所のトンネルがありまして、照明をLEDに更新する工事を進めています。本年度は4か所目となる清滝トンネルの施工を予定しています。

4つ目のため池廃止事業です。農業用としては使用されていないため池について、貯留機能を廃止し、豪雨のときなどに想定される決壊被害を防止する工事を進めています。今年度は出石町の丸中池を予定しています。

5つ目の内町地区圃場整備事業です。昭和51年に圃場整備を終えている地区になりますが、施設の老朽化や農業用機械の大型化などによりまして、区画の再整備等用排水路の管路化工事を進めております。2022年度から工事を着手しておりまして、今年度は3.2ヘクタール分の発注を予定しています。

続いて、9ページをご覧ください。林業及び水産業の振興についてです。

現況と課題、基本方針ですが、林業においては市域の大部分を占めている森林の整備に関しまして、それぞれの地域や森林特性を生かした多様で持続可能な森林マネジメントが必要になっています。

また、林業の担い手の確保や新たな技術の導入による生産性の向上なども求められています。

水産業においては、人手不足や漁船の減少に加えまして、水産基盤施設の老朽化などが課題となっています。

これらの多様な課題に対応するため、豊岡市森林林業ビジョンに基づき森林環境譲与税を活用した

森林整備を進めるとともに、水産業においても但馬漁業協同組合等の関係機関と連携を図りながら、豊岡市水産業振興基本計画に基づいた取組を推進してまいります。

概要についてですが、林業においては、昨年に引き続き但東町坂津をモデル地区として約5.5ヘクタールの森林整備を行うほか、(4)になりますが、本年度から新たに創設しました獣害対策緩衝帯森林整備事業により、有害鳥獣による農産物被害を受けている集落のバッファゾーン整備を支援します。

また、(5)の自伐型林業の推進としまして、国の地域力創造アドバイザー制度を活用して、専門家を招き、市内での自伐型林業に向けた検討を進めます。

2番の水産業に関しましては、田結漁港につきましてしゅんせつ範囲を拡大して、大量に堆積している砂の撤去を行うこととしております。

農林水産課は以上となります。

○委員長（芹澤 正志） 同じく環境経済課、瀬崎課長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） 10ページをご覧ください。経済政策の推進についてご説明申し上げます。

現況と課題についてですが、3月に発表されております国の月例経済報告書によりますと、緩やかな回復傾向にあるとありますけれども、市内の中小事業者の皆様を取り巻く状況については、資材価格の高騰とエネルギー価格の高騰等によりまして、依然厳しい状況下にあると認識しております。それら企業の皆様の経営基盤の強化、これに関します様々な政策を行って、市内の事業者の皆様が持続可能な経営環境を整えていただく、こういったご支援をさせていただくことが必要と認識しております。

基本方針としましては、市内産業の安定強化を図っていただくために、新たなビジネスモデルの構築、併せて起業や創業への支援を行いまして、活性化に努めてまいりたいと考えます。

あわせて、企業誘致の取組も重要と認識しております。現在、整備を進めておりますコウノトリ豊岡

産業用地と、既に整備を終えております出石中川産業用地の分譲につきまして、今年度取組を進めてまいります。

概要としましては、記載の4つの項目について取組を進めますが、中でも1番、内発型産業の育成について少しご説明を申し上げます。

特に成長を目指す企業や新たに起業に取り組みます若者、女性に対する相談業務の実施としまして、既に取組を進めておりますIPPO TOYOOKAの運営、併せて創業セミナーを開催をします。

さらには、こういった起業に興味を持たれた方には、ステップアップ支援補助金や創業支援補助金など、市独自の支援策を実施し、重ねて継業バンクによります事業継承の推進にも努めてまいりたいと考えております。

続いて、11ページをご覧ください。商工振興の推進についてです。

現況と課題としまして、現在様々な業態が多様化しておりまして、特に市内の商工業の皆様を取り巻く環境は厳しさを増し、特に中心市街地の活性化は緊急責務であると認識しております。

中でも市の中心的特産業として取組を進めていただいておりますかばん産業につきましては、人材不足、物価の高騰等による経営悪化も懸念されますので、その改善に向け関係者の皆様と取組を進めてまいります。

また、ものづくり支援も重要な事項になりますので、市内企業の成長、強化に向け、継続して取組支援をする必要があると認識しております。

基本方針としましては、中心拠点施設を活用した中心市街地の活性化、商店街の皆様の活動支援に取り組めます。特に来年、2025年度は、北但大震災から100年の節目の年を迎えます。さらなる中心市街地活性化、商店街の皆様の推進の契機とすべきと認識をしております。

かばんの特産振興におきましては、地域のブランド化の確立、人材育成等を継続し、現在の課題解決に向けた支援を行います。

また、ふるさと納税につきましては、これまで培

いましたノウハウに加え、さらなる民間活力による一層効果的、効率的なPRに努め、当市の魅力を十分発信し、地域経済の活性化と市の自主財源の確保につながる取組を行ってまいります。

私からは以上です。

○委員長（芹澤 正志） それでは、同じくコウノトリ共生課、宮垣課長。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） コウノトリ共生課からは3点ご説明申し上げます。

まず、12ページをご覧ください。コウノトリ野生復帰の推進についてです。

放鳥から18年が経過しまして、野外のコウノトリは300羽を超えております。国内の繁殖地は9府県に拡大しておりますが、今年の春も新たな繁殖地が増えるようなコウノトリの行動が全国から報告されています。

しかしながら、コウノトリの増加とともに、人工物等でけがをし、救護される事例が増えておりまして、これから迎える子育ての期間に事故が起こらないようなことを願っておりましたが、先日もかつて野上で繁殖していた雄のコウノトリが死亡しているのが見つかりました。私たちは人もコウノトリも安心して住めるまちづくりをさらに進めていかなければなりません。そのため、生息環境の創出と保全、それから次世代育成、普及啓発等を進めていくこととしております。

このような流れの中、昨年にはG7サミットにおいて合意された、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標であります30by30を達成するために、国が認定します自然共生サイトに豊岡市内の2か所が認定されるなど、コウノトリをシンボルとした本市の取組は依然高い評価を得ております。

本年度は、コウノトリ野生復帰事業のさらなる情報発信に取り組んでまいります。まずは2025年には放鳥から20年を迎えるとともに、大阪・関西万博が開催されますので、啓発用の映像を再編集するなど、情報発信ツールを整えてまいります。

また、2の（6）兵庫・新潟連携会議では、コウ

ノトリ、トキの野生復帰と両県で進めております環境型の農業について、市内の子供たちと新潟県佐渡市の子供たちとの交流事業を実施し、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」にふさわしい発信につながるよう、県と連携して進めてまいります。

3の（1）になりますが、昨年度、事前調査業務を終えた外来種対策については、普及啓発を行うとともに、豊岡市に生息、生育する外来種のリスト化や、それから特定外来生物の低減管理や防除に対する具体的な活動計画となります。外来種対策行動計画を策定するため、委員会を開催することとしております。

また、自然共生サイトに認定されました加陽地域では、引き続き湿地や里山の管理、森のようちえんや自然体験の場の創出など、地域や民間事業者と協働した保全と利活用事業を進めていくほかに、市民参加型モニタリング調査などを実施しまして、多くの方々に対して認定に対する価値などについて普及啓発を行ってまいりたいと考えております。

その他の事業につきましては、資料をご清覧ください。

次に、13ページをご覧ください。環境施策の総合調整です。

毎年環境基本計画に基づいた環境報告書を作成しておりまして、今年度も成果に関わる調査を行い、環境審議会委員の皆様にご客観的に評価をいただいて取りまとめを行ってまいります。

次に、14ページをご覧ください。脱炭素の推進です。

去る2024年3月に豊岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を改定しまして、2021年3月定例会の市長総括説明において表明しました、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロという目標の実現に向けまして、将来ビジョンや基本方針に基づき、市民、事業者、市が連携、協力して脱炭素の取組を進めてまいります。

本年度は、概要1にありますように公共施設等太陽光発電設備導入調査を行います。これは国の重点

対策加速化事業を視野に、市の公共施設の耐荷重等の調査をしまして、導入の設備や設置方法の検討、発電電力量の推計や導入効果等を踏まえて、太陽光発電設備の導入可能量や事業採算性を調査してまいるものです。

また、市内の再生可能エネルギー導入を支援するために、木質ペレットや薪を利用するストーブ、ボイラーの設置、それから住宅用太陽光発電システムや住宅用蓄電池等の設置補助は継続して行っていくとともに、事業者用の太陽光発電システムの設置補助につきましては、上限をこれまでの10キロワットから20キロワットに拡大し、さらなる導入の支援をしていくことを考えております。

その他の事業につきましては、資料をご清覧ください。

コウノトリ共生部の説明は以上となります。

○委員長（芹澤 正志） 説明は終わりました。

質問等はございませんでしょうか。

清水委員。

○委員（清水 寛） 直接お答えいただける部分がないかもしれないところがあるんですけども、以前、野生復帰プロジェクトということで子供たちのいわゆる豊岡市の環境の取組ということとかをしっかりと取り組んでいくということをされてたんですけども、何年か前からその取組というのはなくなっているというのはそのとおりだと思います。

実は先日、社会教育基本計画の策定の委員会にちょっと傍聴に行った際に、いのちへの共感に満ちた条例の、その文章の中に、実は野生復帰大作戦という文言が残ってるという形になってます。その点で、やはり非常に大きなお題目としての条例でありながら、現状ではない事業名が入ってるということについて、やはりちょっと、その点についてどのようにお考えなのかなというのがお聞きしたいなと思ったのと、その条例の部分というのが何らかの形で修正が必要なのかどうか、その点についてもちょっとお考えあればお聞かせていただきたい。

○委員長（芹澤 正志） 宮垣課長。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） いのちへの共感に満ちたまちづくり条例は、すばらしい条例だと豊岡市としても思っておりますので、条例自体の変更ということはあまり考えるということはないと思いますが、野生復帰大作戦が載っているといいますが、子供たちに対しての環境学習や命への教育というのは、ほかの部署も含めまして多課にわたってやっていると思います。

私たちの課、コウノトリ共生課でも、様々な場面で未就学児童から小学生、中学生に至るまでの環境学習、それから市民団体等も環境学習を様々に行っておりますので、そういった部分では子供の野生復帰というくくりで以前はやっておりましたので、その部分としては失われていないというふうに思っております。

○委員長（芹澤 正志） 清水委員。

○委員（清水 寛） 内容的には、根差した形で残っているなということは認識はしてるんです。ただ、条例の文言の中に、やはりいわゆる固有名詞として載っているっていうのがちょっと今後、そういう意味では検討してもらえたらと思います。これは特に答弁は要りません。

○委員長（芹澤 正志） そのほか。

○委員（福田 嗣久） 一つよろしいか。

○委員長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 委員長が一番冒頭おっしゃった、どこに該当するんか知らんけれども、農林水産課、コウノトリ共生課、今話を聞きながら思ったんですけど、カメムシが異常発生でしょ。災害級だと思うぐらい異常発生なんですけども、その辺の原因はどこにあるのかなと。本当に異常発生な気がする。災害で、台風23号どころじゃないかなと。

○委員長（芹澤 正志） 宮垣課長。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） カメムシもサイクルがありまして、増える年があるというふうに聞いておりまして、基本的には3年ぐらいで1回大きく増える年があると聞いてますので、その当たり年に当たるといいうこともありますので、ほかの原因が、様々多分推測されてる部分はあると

思いますので、確かに今年の量は近年まれに見る異常だとは思いますが、ちょっとその辺の原因がどこにきているのか、例えば地球温暖化なのか、生態系が全部変わっているのかっていうところは、直接的な原因としては分かっていないという段階だと思いますので。生物多様性や脱炭素を進めていく中で、そういったものが軽減されるようなことになればいいなと感じております。

○委員（福田 嗣久） 私もそれを期待しておりますけれども、どこに原因が、サイクルは確かにあるなという気はするんだけど、災害級のような気がするの、本当に。本当に多いし、これは農業施策や田んぼや山の問題や影響してるんかしてないんか、温暖化が影響するのか、自然との共生というのはよう理解はしてるんですけども、困ったこっちゃなど。今日この会議でやっぱり仕切っていただいて、それはちょっと協議せなあかんなど。重要案件、重要な施策……。これは冗談ですけども。また、よう調べてみてえな。私も調べます。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） 引き続き対策練ります。

○委員（福田 嗣久） その辺でぜひ、コウノトリ共生で頼みますよ。

○委員長（芹澤 正志） ほかにございますでしょうか。

前野委員。

○委員（前野 文孝） 幾つかお願いします。今回は漁業について、水産業について入れていただきましたありがとうございます、今までなかったの。

この中で、漁業燃油高騰対策支援事業っていうのは、これ多分国だとは思いますが、市としての単独なのかというのがまず1点と、それから次の経済施策の推進の中の、豊岡市経済ビジョンに基づく施策の検討とありますけども、こういった形でどういうアウトプットを期待してるのかというこの2点についてまずお答えいただけますか。

○委員長（芹澤 正志） 浪華課長。

○農林水産課長（浪華 誠） 漁業の燃油の関係ですけども、委員おっしゃるとおり、漁業者の方が国

と一緒に基金に積み立てる際の一部について、30%なんですけど、市が単独で補助をさせていただくものとなっております。以上です。

○委員長（芹澤 正志） 瀬崎課長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） まだまだ私も勉強していく途中ですけれども、今現在予定してますのは、やはり内発型産業の育成、ここに豊岡らしさを見いだしていくようなビジョンの展開にしております。その中で、先ほどご説明しましたとおり、起業したいな、創業したいなって言われる若い世代、女性の皆さんに対して、IPPO TOYOOKA、既に2019年6月にスタートしておりますが、まずは無料の相談会、これを設けることで自分が思い描いていることをより形にすることをつなげていって、その後、起業するためには資金が必要ですので、内容によって創業支援補助金、既に起業なさっている皆様がステップアップしていただくためのステップアップ支援補助金、こういったようなものを活用しつつ、あわせて今問題になってますが、担い手、跡継ぎがないという問題がありますので、ここを、継業バンクをしっかりと活用して、昨年度4件の継業が成功しておりますので、豊岡らしさをこのビジョンの基にしっかりと実現をしていくと。

あわせて、やはり新しい企業、この誘致も必要だと認識しておりますので、産業用地、その分譲をしっかりと努めるとともに、市内にも今後未利用地が出てくる可能性がありますので、そういったところもしっかり分析、活用についての検討を進めていきながら、強い豊岡経済をつくっていきたいというふうに考えております。以上です。

○委員長（芹澤 正志） 前野委員。

○委員（前野 文孝） お願いしたいと思います。特に経済ビジョンのほうでは、人手不足のほうがかなりフォーカスされてるので、その部分をちょっと加えて検討いただきたいと思います。

それから、コウノトリ共生課のほうに聞きたいんですが、30 by 30という言葉がありましたけども、どこでどういう地点なのか、これが豊岡市でいうふうなプラスになるのか。それから、先ほど

少しありましたが、万博に対しての今の状況を、ちょっとその2点について教えてください。

○委員長（芹澤 正志） 宮垣課長。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） まず30 by 30についてですが、これはG7サミットの中で日本が世界に向けて約束したという形で、生物多様性の保全を図っていくために陸域30%、海域30%での保全地区をつくりましょうということを言っています。ただ、国立公園等がある中で、これ以上国の国立公園を増やしていくというのは日本の国土的にも難しい部分がありますので、その中で増やす手だての一つとしてされていますが、生物多様性保全等に直接的には関係はないですが、民間地として生物多様性保全が行われているような土地利用のされ方について、国がOECMという形、今では自然共生サイトというふうになってますが、自然共生サイトとして認定していきましょうということになってます。

企業が持っておりますような林地だとか、それから山、そういったものが基本的にはOECM、自然共生サイトに選ばれておりますが、豊岡市内では、郷公園周辺の部分の農地ですとか、豊岡市が申請しました加陽の農地、それから大師山を含めた里山がOECMサイトに認定されているというような状況にあるというものです。

また、30 by 30が今度どうなっていくのかということは、国のほうでもかなり言われてますが、TNFDですか、生物多様性情報開示の部分で企業的にはかなり使われていくということがされていますので、そういったインセンティブも含めて国とも話し合いながら、地域のインセンティブに落とせるように努力していくということをまずは考えております。

それから、もう一つの部分の万博、これは申し訳ないです。質問で返してしまいましたが、30 by 30とかOECMの自然共生サイトについて万博としてどうなってるのかっていう。

○委員（前野 文孝） いやいや、そうじゃなくて、万博とコウノトリの取組とはつながりが。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） はい、分かりました。

万博に対しては、まずは今年度の取組の中でもあります兵庫・新潟連携のほうで、コウノトリ野生復帰とそれからトキの野生復帰、それから、コウノトリ育む農法などの豊岡の特徴的な取組を訴えていけるように県と連携してまずは進めているというような状況にあります。

野生復帰単体についてはなかなかまだ見いだせてないところもありますので、これはコウノトリ郷公園がまたフィールドパビリオンのプレミアムに選ばれているということもありますので、この辺も今後力を入れて万博に向けて情報発信をしていきたいなというふうに今考えておるところです。

○委員長（芹澤 正志） 前野委員。

○委員（前野 文孝） ありがとうございます。

○委員長（芹澤 正志） ほかにございますでしょうか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 2点お聞きしたいと思いますが、1つは、今の話であったのがそうかなと思うんですが、自然共生サイトの豊岡市の2か所っていうのは、今話があった郷公園周辺と加陽湿地や大師山沿い、中筋の一角、その2か所ですか。

○委員長（芹澤 正志） 宮垣課長。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） そのとおりです、はい、2か所です。

○委員長（芹澤 正志） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） じゃ、もう1点は、14ページかな、脱炭素の関係なんですけど、これ今、概要等を見させてもらって、太陽光にちょっと依存し過ぎちゃうかなと。再生可能エネルギーはほかにいろいろとあるんだけど、太陽光パネルが、何かいろいろと聞くと、耐用年数の関係、あるいは後のこの、何ていうのか、解体っていうのか、壊すというのか、そのときの費用とか、あるいはいろんな諸問題がある中で、太陽光にあまりにも依存し過ぎたらええのかなと、そんなことで。むしろもっと、ここに木質バイオマスもあるんだけど、例えば水力だとか風

力だとか等々、幅広く脱炭素の関係では取組が必要ではないのかなと思うんですけども、どうなんでしょうか。

○委員長（芹澤 正志） 宮垣課長。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） ご指摘はもっともだと思いますが、これまでも再生可能エネルギーにつきましては、豊岡市のほうでいろいろな導入方法、どんなものが可能なのかということを検討していく中で、やはり太陽光を進めていくということがまずポテンシャル的には高いというふうな調査でも出ておりますので、そこを進めていくということをしております。

それから、また木質バイオマスについても、様々に取り組んでいこうということで、補助金だけではなく、また農林水産課のほうとも連携しながら進めていきたいというふうに考えております。

あと、小水力だとかも一応これまでも導入可能性調査みたいなものを行っておると思いますので、そういったところも含めて今こういった進め方、施策の打ち方ということで、2050年、実質排出ゼロということを目指して取り組んでおるところだというふうに思っております。

○委員長（芹澤 正志） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 言われることは分かるんです。

分かるんですけども、太陽光中心というの、カネカソーラーもあるからかしらんけども、ちょっと偏り過ぎちゃうのかなと。

あと、耐用年数っていうの分かるんですか、あのパネルの。

○委員長（芹澤 正志） 宮垣課長。

○コウノトリ共生課長（宮垣 均） 一応20年とされてますが、30年でも使える、そこまで使われてるっていうのが実例としてはあると。

○委員（村岡 峰男） そのぐらいにしときます。

○委員長（芹澤 正志） そのほかございませんでしょうか。

副委員長。

○委員（森垣 康平） 農林水産課のほうで一つ聞きたいんですけど、少し前までグッドローカル農業と

いうのが必ずこういった文書には出てきたと思うんですけど、今回見させていただくとそういった表記が何もないのは何かお考えがあるのかということと、もう一つは、ふるさと納税のことなんですけど、効果的な推進のためにPR強化及び返礼品の充実と書いてあるんですが、PR強化策って具体的に何を考えておられるのか、ちょっとその辺を教えてください。

○委員長（芹澤 正志） 浪華課長。

○農林水産課長（浪華 誠） グッドローカル農業につきましては、当然今年度も推進員を配置して推進をしております。今回事務概要の中では、農業の振興という1つにちょっとくくらせていただいた関係で、農業ビジョンに基づきってという言葉を使わせていただいているんですけど、グッドローカル農業もビジョンの中の合い言葉というような形で捉えておりますので、委員ご指摘いただいているんですけども、しっかりとその辺は、豊岡のPRは進めていきたいなと思っております。以上です。

○委員長（芹澤 正志） 瀬崎課長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） ふるさと納税につきましては、実際にご寄附をいただいている皆さん、この動向を見ておりますと、まず返礼事業者として決めさせていただいている。市も直接紙で、ペーパーで出していただいても寄附を受けさせていただいて返礼品をお返しできる。この市を入れまして、今、全13事業者が返礼事業者として取組を進めていただいています。

そのうち、ポータルサイト、ネットですね、これを運営していただいております事業者様が8サイトありまして、ほとんどがこのポータルサイトを經由したご寄附になっております。それぞれ見ていきますと、このポータルサイトのトップ画面に豊岡市が出てきているもの、もしくは画面上の構成、やはり言葉はよくないですけども、商品をよりおいしそうにとか、より効果的に見せる視覚っていうのが非常に重要になってまして、今現在、試験的に楽天さんとその取組を進めた結果、圧倒的に楽天さんでのご寄附が多くなっております。

ただ、残った8サイトも重要なご寄附先、PR先になりますので、今年度はベルヴィ株式会社さんというところが、こういったポータルサイトの統一化や写真のクオリティーの向上、また寄附をしやすいような申請の仕方、こういったところをトータルの、8サイトがばらばらですので、そこをトータルコーディネートしていただけるということになりましたので、ベルヴィさんを通じて豊岡市のポータルサイトの統一化、ここに力を一定入れていただくような事業を考えております。以上です。

○委員長（芹澤 正志） はい。

○委員（森垣 康平） ふるさと納税のほうは分かりました。ありがとうございます。よろしくお願いします。

グッドローカル農業の件なんですけど、去年かな、おとしかな、若い農業者の方々を集めて推進委員会みたいのをされて、マルシェの取組だとか農カードの取組とかされてたと思うんですけど、そういった取組は持続的にされる予定ですか。

○委員長（芹澤 正志） 浪華課長。

○農林水産課長（浪華 誠） そうですね。委員会につきましては、今年度も1回か2回程度は予定しております。農ガールさんとか、そのときに来ていただくかどうかというのは今後検討はさせていただきたいと思いますけども、そういった市内の農業者の方に集まっていただいて、今の現況等を伺ったりですとか、特に豊岡をPRするための何かいいアイデアみたいなお伺いをしたいと思っておりますので、その辺についてはさせていただきたいと思っております。以上です。

○委員長（芹澤 正志） 森垣副委員長。

○委員（森垣 康平） 以上です。ありがとうございます。よろしくお願いします。

○委員長（芹澤 正志） ほかにございませんか。
義本委員。

○委員（義本みどり） 1つだけ教えてください。継業バンクのところなんですけれども、昨年度4件が成立したということなんですけど、申込者数ってどのくらいあるんでしょうか、ざくっとで。

○委員長（芹澤 正志） 瀬崎課長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） 実はこの継業バンクの申込みっていうのが、国が支援していただいてます継業バンクサイト、そちらを通じて市のほうがご支援をさせていただくというような流れになるんですけれども、これまで過去3年間で登録、相談があったのが8件、そのうち1件は取下げとかいろんなことがあったんですけれども、ようやくそれが2年間とかの掲示期間、PR期間を経て、昨年度4件の継業につながったといったことになります。

今でもリアルタイムにこの継業バンクへの登録、相談というのは受け付けておりますので、随時募集をさせていただいているような状況になります。以上です。

○委員長（芹澤 正志） 義本委員。

○委員（義本みどり） この決まったところなんですけれども、やっぱり継業しようっていう気になろうと思ったら、事業がうまくいっているところなのかなと思うんですけど、そういった理解でよろしいですか。

○委員長（芹澤 正志） 瀬崎課長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） 私も昨年マッチングが成功しました4社、それぞれ担当や事業者様のほうに伺いました。具体的には、ご承知だと思いますが、例えば出石の割烹・葵さんですと、葵さんの中の建物、あわせて継業バンクに登録される方は事業主さんの条件というのもありまして、例えば建物は無償ですよ、従業員は継続してほしいですよとか、そういった条件がありまして、その条件に合う相手さん、お見合いの相手方がうまく合う、こういったところが非常に重要になっております。

あわせて、今年度、もう一つうまくいきましたのが、養鶏場さんが1社うまくいったんですけれども、そういったところは、新たにこの事業をやりたいといったような新規の取組というところもありますので、ケース・バイ・ケースではありますけれども、やはり渡したい側の条件、あまり高価ですと、登録がありますけれども、なかなか買手の方といいますか、相手が見つかりにくいというようなことも聞い

ております。本当にケース・バイ・ケースで難しい状況だと認識しております。以上です。

○委員長（芹澤 正志） 義本委員。

○委員（義本みどり） 分かりました。ありがとうございました。

○委員（福田 嗣久） 今のに関連して。

○委員長（芹澤 正志） はい。

○委員（福田 嗣久） ほかにはどんな業態でしたか。

○委員長（芹澤 正志） 瀬崎課長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） 出石の葵さん、それから加陽の養鶏場さん、それから城崎の旅館が1件あります。それと、豊岡の喫茶店、こちらが1件、この4件が継業が成功しております。以上です。

○委員長（芹澤 正志） ほかによろしいですか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） それでは、続きまして、都市整備部の説明をお願いいたします。
都市整備部建設課、久田課長。

○建設課長（久田 渉） 15ページをご覧ください。現況と課題と基本方針についてです。

2021年3月に策定をしました豊岡市道路整備計画に基づきまして、市内のネットワークとなる幹線道路を中心に国庫補助金等を活用しながら、ここに示してます5路線の道路整備を行い、特に継続の路線につきましては早期の完了を目指したいと考えております。

引き続き概要ですけれども、継続事業が4件、新規事業が1件です。まず、1つ目の市道福田宮井線の道路整備、いわゆる桁江橋ですが、既にこれにつきましてはもう供用開始をしており、今年度から橋梁撤去を行うべく、国との3か年の基本協定も結んでおります。現在具体的な契約事務を進めているところです。今年度は約1億円の予算で下部工3基の撤去を行うこととしております。

2つ目の市道上野線の道路整備、上野橋ですが、こちらにつきましても予算7,500万円で国道426号との接続部の道路改良工事を施工予定としております。

それから、3つ目、市道藤井中森線、日高の奈佐

路のところですが、昨年度までに測量と用地買収を終えております。今年度は予算額2,600万円をもって施工延長の半分に当たる100メートルの道路改良工事を施工予定としております。

それから、継続工事の最後4つ目です。城崎の上山二見線道路改良ですが、昨年度までに詳細設計業務を終えており、今年度3,800万円で施工延長220メートルの東側、玄武洞の駅側に当たるほうの構造物などの道路改良工事を施工予定としております。

それから、新規事業です。但東町、高龍寺本線の道路改良です。本路線は幹線市道太田虫生線と集落内を結ぶ幹線道路ではありますが、幅員が狭小であり、冬期の車両通行に支障を来しているため、幅員の拡幅を行うものです。今年度は2,600万円の予算で測量や詳細設計を行うこととしております。

それから、引き続きまして16ページをご覧ください。橋梁の長寿命化事業の推進、こちらについても現況と課題と基本方針についてです。

こちらにつきましては、2020年の2月に策定をしました豊岡市の橋梁長寿命化修繕計画に基づきまして、計画的に修繕や架け替えを行っており、ところでございます。

概要です。1つ目の補修工事につきましては、正法寺大橋ほか11橋の補修工事を行うものです。

2つ目の項目、業務委託につきましては、五荘大橋のJRの委託分、それから北下橋ほか6橋の補修のこちらは設計になります。設計の業務委託に加え、橋梁長寿命化の策定の見直し業務を行うこととしております。

それから、3つ目の項目の補償費は、ロクロ橋といいますが、橋梁の架け替えに際して架空線の移設の物件の移転補償の関係を今年行うこととしております。

建設課からは以上です。

○委員長（芹澤 正志） 続いて、同じく都市整備課、武中参事。

○都市整備課参事（武中 孝寛） 都市整備課からは、公園施設長寿命化計画についてご説明いたします。

17ページをご覧ください。

まず、現況と課題、基本方針です。豊岡市が管理する公園については、優先順位を定めて市の単独費により予算の範囲内で修繕、補修を実施しているところでは、

特に都市公園については、2019年度、公園施設長寿命化計画を策定し、社会資本整備総合交付金と公共施設等適正管理推進事業債の財源を活用し、補助事業あるいは起債事業により公園施設の更新も併せて実施しています。

次に、概要についてです。2019年度から2023年度までの5か年を計画期間とし、防災安全対策を目的とした社会資本整備総合交付金事業を実施してまいりました。2024年度、今年度は、都市公園を対象にした公共施設等適正管理推進事業債を活用し、市内の2公園、遊具等と公園施設を更新する予定です。

また、公園施設長寿命化事業とは別ですが、市民体育館の解体及び跡地の整備を、中央公園整備事業として合併特例債を活用し、市民体育館解体実施設計業務と中央公園整備実施設計業務を予定しております。

私からは以上です。

○委員長（芹澤 正志） 建築住宅課、小川課長、どうぞ。

○建築住宅課長（小川 琢郎） 18ページをご覧ください。民間住宅の耐震化の促進についてでございます。

現況と課題のところですが、旧耐震基準、1981年の5月31日以前着工の住宅、こういったものは耐震性が不足しているというふうに言われております。これらの住宅につきまして、まず簡易耐震診断を受けていただいて、耐震性が不足すると診断された住宅については、耐震改修工事への補助制度を活用していただくことで、耐震化を支援していきたいと考えております。

基本方針として、豊岡市耐震改修促進計画、これに基づいて住宅の耐震化率を97%ということを目指して進めていきたいと考えております。

概要のところですが、まず簡易耐震診断の推進ということで、希望される方について市が簡易耐震診断員、これを派遣しまして、地震に対する安全性を簡易な方法で評価する診断を受けていただきます。対象となる住宅は、先ほど申しました1981年5月31日以前の着工の住宅が対象となっております。個人負担のほうは不要というふうにしております。

それから、住宅の耐震改修工事の推進です。補助事業ですが、これも全て1981年5月31日以前着工の住宅が対象です。

また、この前段では簡易耐震診断、これを受けていただいて、耐震性が低いと評価されたものが対象になってまいります。

まず1つ目、豊岡市住まいの耐震化促進事業補助金です。これは国と県の補助を活用した補助金で、まず全体補強型がありまして、計画策定と改修工事があります。計画のほうは上限20万円、改修工事のほうは上限120万円としております。部分補強のほうは上限が50万円、防災ベッドの設置補助については定額で10万円としております。

それから、次の豊岡市住宅耐震リフォーム補助金ですが、これは市の単独補助事業です。居室等を補強する場合のリフォーム補助金ということで、リフォームと併せて居室、居間とか寝室の補強をする場合の補助金で、これは一般が50万円、特別型は60万円というふうにしております。

それから、もう一つ、リフォーム補助金というふうに書いておりますが、これは先ほどの国県の補助事業に上乗せで加算する補助金で、これもリフォームと同時にしていただく上限30万円の補助事業です。

次に、19ページをご覧ください。老朽危険空き家対策の推進です。

現況と課題ですが、空き家の現状把握、これについては、市内全区に危険空き家等の有無、これを確認するアンケート調査を数年に1回実施しております。その後は1年に1回、現況の調査を建築住宅課の職員で行っております。

また、随時区長さんとか市民の皆さんから空き家の対応依頼が入ってきますので、その都度、現況確認を行っております。

2024年3月末現在の件数なんですけども、特定空家が3戸、早急な対応が必要と思われる空家が21戸、このまま放置すれば将来危険な空き家となるおそれのある空き家が63戸、管理されているものや周辺に影響がないその他の空き家が181戸で、合計268戸という状況です。

基本方針のところで、豊岡市空家等対策計画に基づいて対応していくこととしております。

概要のところなんですけども、空家等対策協議会、これを年に二、三回開催をしております。ここでは空家等対策計画の作成、それから変更、また特定空家等に該当するか否か、その措置について協議を行っております。

それから、2番目の危険空き家等の除却支援補助金です。まず1番目が特定空家の除却支援補助金で、これは特措法に基づく助言指導勧告を受けた特定空家が対象になってきます。補助率3分の1で上限133万2,000円としております。3件を見込んでおります。

それから、今年度新たに設けました豊岡市危険空家除却支援事業補助金ということで、これも保安上、危険となるおそれのある空き家が対象で、市の危険空き家判定基準、これの評点とそれから周辺危険度安定基準、これを満たしている必要があります。対象経費6分の1で、上限33万3,000円としております。予算のほうは10件予定をしております。5年間の措置としております。

建築住宅課は以上です。

○委員長（芹澤 正志） 同じく地籍調査課、上阪課長。

○地籍調査課長（上阪 善晴） 20ページをご覧ください。地籍調査事業の推進です。

現況と課題です。地籍調査は国県補助金を活用して事業をしており、現在は国が重点的に推進する防災・減災対策に資する土砂災害等の危険箇所や公共事業連携を図る区域を中心に調査を推進しており

ます。特に公共事業連携では、県の先行地籍調査事業を活用し、山陰近畿自動車道の豊岡北から竹野間、こちらについて計画区域の調査が全て完了し、最終的な法務局送付の準備を行います。

また、豊岡北から城崎間でも、調査が完了した箇所の法務局送付を進めるとともに、順次計画区域の現地立会調査を実施していく予定です。

これらに加えて、北近畿豊岡自動車道関係で調査した区間に隣接する箇所、こちらの平野部の調査を進めていく方針なんですけれども、国が重点箇所とする災害対策に資する区域と合致することが難しくなっておりまして、調査の進め方が課題となっております。

基本方針ですけれども地元住民や地権者の理解と協力を得るために、現地立会調査の開始までに説明会を開催して地区推進委員会を組織していただき、円滑な推進に努めてまいります。

また、筆界確認等に豊富な知見を有する現地調査能力の高い土地家屋調査士に業務委託を行うこととしております。

概要ですけれども、1番目の地籍調査事業4,379万円、それから進捗率が今年度末で14.4%を見込んでおります。

2番目以降につきましては、ご清覧いただきたいと思います。

地籍調査課からは以上です。

○委員長（芹澤 正志） 説明は終わりました。

質問等はございませんか。

前田委員。

○委員（前田 敦司） 民間住宅耐震化に関して2点お伺いさせていただきたいと思います。

1点目が、この耐震の補助、住宅耐震改修補助があるんですけど、この関連で2023年度の実績というのがどれぐらいの量があるのかっていうのが1点。

もう1点が、この間、とある地質学者の方とお話をしていると、豊岡市内でも地震のリスクが高いところと少ないところとあるっていうのを言っておられたんですが、そういった形で、本市の中でも地

震の被害リスクが高いところなんかを重点的に支援するとか、そういったことは計画にありますでしょうか。

○委員長（芹澤 正志） 小川課長。

○建築住宅課長（小川 琢郎） まず、2023年度の実績ですけれども、住宅の簡易耐震診断、これが36件ございます。それから、市の単独の耐震改修補助、これが14件、あとの国県のものについては実績はございませんでした。

それと、重点的な取組ということですが、一応こういった補助制度を設けておりまして、市内全域に呼びかけておりますので、全般的な対応をしていただきたいというふうに思っておりますけれども、特にここを重点ということは今のところ考えておりません。

○委員長（芹澤 正志） 前田委員。

○委員（前田 敦司） 実績ありがとうございます。直観的には何かなかなか意識が向けにくい事業なのかなというふうに思うんですけども、本当に地震で家屋が倒壊して大けがだったりとか亡くなる方だったりとかっていうのはおられるっていうのはあるので、対象の物件がしっかり耐震化されるのが大切なかなというふうに思っておりますので、ぜひ推進していただきたいと思います。

もう1点の、地質学者の方とのお話が結構衝撃的でして、これはまたぜひ研究していただきたいと思うんですが、とある地域は北但大震災のときにプレートが動いていないので、来るとしたらその辺りが危ないんだというふうに科学的に出ている部分があるらしいです。なので、その辺りもまたぜひ今後研究していただきながら、しっかりと市民の方の命を守っていただけるようにご尽力いただけたらと思います。以上です。

○委員長（芹澤 正志） そのほかございませんか。
義本委員。

○委員（義本みどり） 今の耐震補強のところなんですけれども、実は私も築77年の中古住宅を数年前に購入して、これを使わせていただいたんです。そのときに、崩壊寸前、簡易診断で。たしか申し込む

ときに国県のやつってすごく手続が何かややこしかったような気がして、結局市のほうに申し込んだんですが、そういう認識で合ってますか。すごく何かもう申請とかがややこしかったような覚えがあるんですが、どうでしょうか。

○委員長（芹澤 正志） 小川課長。

○建築住宅課長（小川 琢郎） 申込みについては建築住宅課、今ホームページにも載せてますけれども、まず電話で問い合わせしていただければどういうように申し込んでいただけるか、ご相談に乗らせていただきます。その上で申請をしていただくこととなりますので、補助の件数が上限50件としておりますので、そこに満たない場合にはそんなに複雑な手続ということにはならないというふうに思っております。

○委員（義本みどり） 国県の、こっちの1番のほう。

○建築住宅課長（小川 琢郎） 1番。

○委員（義本みどり） （1）のほうがすごくややこしかったような気がして、市のほうはそんなに難しくなくて、担当の方に教えていただきながら私でも申請できたので、1番のほうがゼロ件なので、何かちょっとハードルが高かったのかなというような覚えがあったんですが、どうでしたでしょうか。ごめんなさい、聞き方が悪かったです。

○委員長（芹澤 正志） どうぞ。

○建築住宅課長（小川 琢郎） ちょっとこの国県の補助事業については事業費が大きくなりますので、その関係で、具体的に建築士さん等とも相談しながらということになりますので、そういう点で少し難しかったのかなということは思いますけれども、担当と相談していただいて、これ直接のやり取りは業者の方とやるのが主になってくると思いますけれども、そういうことで、なるべく難しくならないように対応したいというふうに考えております。

○委員長（芹澤 正志） 義本委員。

○委員（義本みどり） 誤解のないように、当時も大変親切に教えていただきまして、用紙のここ書いて、ここ書いてと丁寧な対応をしていただきましたので、対応はとてもよかったと思っております。以上

です。

○委員長（芹澤 正志） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） それでは、ないようですので、この際、当局の皆さんから特にご発言はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） ないようですので、当局の皆様は退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

暫時休憩します。再開は１０時４５分。

午前１０時３５分休憩

午前１０時４０分再開

○委員長（芹澤 正志） それでは、皆さんおそろいの方ですので、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

それでは、後半の部に入ります。

３番の自己紹介に入ります。今回は年度当初の委員会でありまして、４月の人事異動で当局職員に異動がありましたので、ここで自己紹介をいただきたいと思います。

まず、委員会からです。

では、改めまして、改めてじゃないですね、引き続きの方と何か改めての方がいらっしゃいますけれども、委員長の芹澤でございます。しばらくの間、何とぞよろしくお願いしたいと思います。

○委員（森垣 康平） 森垣です。よろしくお願いいたします。

○委員（前田 敦司） 前田です。よろしくお願いいたします。

○委員（義本みどり） 義本です。よろしくお願いいたします。

○委員（村岡 峰男） 村岡です。よろしくどうぞお願いします。

○委員（福田 嗣久） 福田です。よろしくお願いいたします。

○委員（清水 寛） 清水です。よろしくお願いいたします。

○委員（前野 文孝） 前野です。よろしくお願いいたします。

○委員長（芹澤 正志） 次に、各振興局から名簿に記載された順でお願いします。

では、振興局からお願いします。

○城崎振興局長（富岡 隆） おはようございます。４月から城崎振興局長を拝命しました富岡です。どうぞよろしくお願いいたします。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） 城崎振興局地域振興課の橋本です。引き続きよろしくお願いいたします。

○城崎温泉課長（山田 和彦） 城崎振興局城崎温泉課長の山田和彦です。どうぞよろしくお願いいたします。

○竹野振興局長（石田 敦史） おはようございます。竹野振興局の石田です。この建設経済委員会は私が議会のほうにお世話になってから９年目になります。最初からずっとお世話いただいております。

今年度末をもって一応役職の定年となりますので、今年度が最後かなというふうに思ってます。どうぞよろしくお願いいたします。

○竹野振興局地域振興課参事（森口 佳徳） 失礼します。４月の人事異動で竹野振興局地域整備課参事を拝命しました森口です。どうぞよろしくお願いいたします。

○日高振興局長（柳沢 和男） 失礼します。日高振興局長の柳沢です。引き続きよろしくお願いいたします。

○日高振興局地域振興課参事（山本 慎二） 日高振興局地域振興課参事の山本です。どうぞよろしくお願いいたします。

○日高振興局地域振興課参事（上野 和則） 失礼します。同じく日高振興局の地域振興課参事の上野です。今年度も引き続きよろしくお願いいたします。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） この４月の人事異動で出石振興局地域振興課参事を拝命しました神谷と申します。よろしくお願いいたします。

○但東振興局長（大岸 和義） 但東振興局、大岸和義でございます。よろしくお願いいたします。

○但東振興局地域振興課参事（大岸 勝也） 但東振興局、大岸勝也でございます。よろしくお願いいたしますします。

○上下水道部長（川端 啓介） 上下水道部、川端です。引き続きよろしくお願いいたします。

私も石田局長と同じ、今年が最後の年になります。そっとしていただけたらありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

○水道課長（谷垣 康広） 水道課長、谷垣です。引き続きよろしくお願いいたします。

○水道課参事（大谷 賢司） 水道課参事の大谷でございます。よろしくお願いいたします。

○水道課参事（縄手 伸幸） おはようございます。この4月の人事異動で水道課参事を拝命しました縄手です。どうぞよろしくお願いいたします。

○下水道課長（榎本 啓一） 失礼します。下水道課長の榎本です。どうぞよろしくお願いいたします。

○下水道課参事（野畑 修身） おはようございます。4月の人事異動により下水道課の参事を拝命しました野畑です。よろしくお願いいたします。

○農業委員会事務局長（安藤 洋一） 失礼します。農業委員会事務局の安藤です。引き続きよろしくお願いいたします。

○委員長（芹澤 正志） 最後に、議会事務局、お願いします。

○事務局主幹兼事務局総務係長（山本 雅彦） 失礼します。この委員会の事務局を担当いたします議会事務局の山本です。よろしくお願いいたします。

○委員長（芹澤 正志） ありがとうございます。今年度は当分の間、このメンバーで委員会審査をご対応いただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、協議事項1番の委員会所管事項の事務概要についてに入ります。

進め方としては、まず各振興局から説明いただいた後に、振興局一括して質疑を行います。その後、上下水道部、農業委員会事務局の順に部、局ごとに説明、質疑を行いたいと思います。

なお、委員の皆さん、当局の皆さん、質疑、答弁

に当たりましては、くれぐれも要点を押さえて簡潔明瞭に行うなど、スムーズな議事進行に格別のご協力をお願いいたします。

また、委員会での発言は、委員長の指名の後、マイクを使用して発言者名を名のってから行っていただきますようにご協力をお願いいたします。

それでは、まず、各振興局の説明を城崎振興局から順にお願いいたします。

橋本参事。

○城崎振興局地域振興課参事（橋本 郁夫） それでは、城崎振興局の取組についてご説明申し上げます。

城崎地域では、繁忙期と閑散期の観光客の入り込み数の差がございますので、年間を通じた観光客の誘客を図るため、城崎温泉の魅力を向上させるための取組を行ってまいります。

また、城崎の伝統工芸であります麦わら細工の後継者の創出、育成等も課題となっておりますので、それらの振興を図ってまいります。

そして、市民との共創の取組を行うとともに、公共施設の集約を進めてまいりたいと思います。

具体的にですが、事業のほうを説明させていただきます。振興局プロジェクトの関係ですが、まず城崎温泉夢花火事業としまして、夏休みの誘客として打ち上げられる城崎温泉夢花火事業への支援を行ってまいります。

（2）で街路樹整備事業としまして、城崎の景観を形成する大事な要素の大谿川沿いの柳・桜並木を剪定、植え替え等により健全な育成を図ってまいります。

（3）のほうで、麦わら細工振興事業としましては、市内の児童を対象に麦わら細工の学習会と製作体験を実施してまいります。

（4）、ちょっと新規事業になりますが、城崎・港未来づくり補助事業としまして、城崎・港地域のおおむね10年先の未来を見据えた際に考えられる地域課題について、自ら課題解決につながるような取組に対しまして補助をしていくという、そういったものを新しく実施していこうと思っております。

大きな2番ですが、城崎観光施設管理費ということで、城崎温泉交流センター基本計画策定事業、公共施設の集約化ということで、城崎温泉交流センターを複合施設に建て替える基本設計を今年度は行っておりま

す。(2)のほうで、城崎温泉交流センター解体実施計画ということで、施設の建て替えのために交流センターの解体の実施計画を併せて行っておりま

す。

城崎は以上となります。

○委員長(芹澤 正志) 竹野振興局地域振興課、森口参事。

○竹野振興局地域振興課参事(森口 佳徳) 竹野振興局の取組についてご説明いたします。

現状と課題、基本方針につきましては、昨年度と同様に、人口減少及び高齢化による地域活性力の低下、また二極型観光からの脱却を図るため、地域の情報発信や地域の特色を生かした事業を推進することにより、人口減少の緩和と地域振興を図っていき

たいと考えております。

概要につきましては、竹野振興局プロジェクト事業として、5点計上しております。

1つ目、たけの海上花火大会事業は、竹野地域の知名度及び地域活性化の向上に寄与する竹野海上花火大会への支援を引き続き行うものです。

続いて、2つ目、竹野焼杉板景観保全事業は、竹野浜地区の景観保全を推進すべく、家屋の外壁に焼杉板を使用した場合、材料費の一部を補助するものです。

続いて、3つ目、新規事業としまして、竹野のお仕事図鑑作成事業は、竹野地域で働いている若者たちを紹介する竹野のお仕事図鑑を作成し、ホームページや移住イベント等で情報発信することで、竹野地域の移住・定住者の増加につなげるものです。

続いて、4つ目、竹野地域空き家対策事業は、地域全体で空き家問題への意識を変えていただくため、区長や地域住民に向け説明会の開催や啓発資料の作成を行うものです。

最後に、5つ目、川湊再生プロジェクト後継検討

事業は、竹浜地域を中心に展開してきました川湊再生プロジェクト事業を竹野地域全体にエリアを拡大し、あわせて関係人口の増加を図るべく、地域内の関係団体などと協議を行い、新たな事業実施に向けた検討を行うものです。

説明は以上です。

○委員長(芹澤 正志) 日高振興局地域振興課、山本参事。

○日高振興局地域振興課参事(山本 慎二) 24ページをご覧ください。日高振興局の取組について説明します。

現況と課題につきましては、昨年度同様になります。

基本計画につきましては、振興局機能等を維持するため、日高庁舎の改修を行うという一文を加えております。

取り組む事業として大きく分けて4つあります。

まず、1つ目の日高振興局プロジェクト事業です。

(1)日高地域づくり運営事業は、日高振興局版の若者会議事業として、2022年度から取り組んでいるものです。各種団体等の会合に職員が参加し、まちづくりに対する意見や提案をお聞きし、振興局の事業に取り入れるなど、協働のまちづくりを展開していきます。

(2)日高地域の先輩に学ぶ事業は、2016年度から行っている取組で、今年度も日高東中学校と日高西中学校でそれぞれ実施します。

次に、2つ目の観光事業です。

(1)道の駅「神鍋公園」改修整備事業は、道の駅の機能の最適化と長寿命化を図る整備運営計画を策定し、その計画に基づいて改修整備を実施するものです。2023年度に整備運営計画を策定しましたので、今年度は実施設計業務を実施します。

なお、2025年度に改修整備を行い、2025年度中のリニューアルオープンを目指しております。

(2)日高夏まつり事業は、例年JR江原駅周辺で開催されます日高夏まつり事業に補助支援するものです。

続いて、3つ目の植村直己顕彰事業です。

世界的な冒険家、植村直己の挑戦する心を伝承し、未来を担う子供たちの挑戦を応援する取組を展開していきます。

具体的には、植村直己冒険賞を核とする顕彰事業を実施します。6月1日の土曜日、日高文化体育館で、2023冒険賞を受賞された山田高司さん、高野秀行さんと田中彰さん、大西良治さんの2組4名の受賞式と記念講演を開催します。

また、指定管理施設の植村直己冒険館では、冒険精神の伝承と子供たちの挑戦する心を育成する様々なイベントや体験プログラムを提供していきます。

次に、4つ目の庁舎管理です。

日高庁舎は築42年経過しており、行政の効率化、市民の利便性向上に資する脱炭素によるライフサイクルコストの縮減、ユニバーサルデザイン化を図るための実施設計業務を実施します。

説明は以上です。

○委員長（芹澤 正志） 出石振興局地域振興課、神谷参事。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） それでは、私のほうから出石振興局の取組についてご説明をさせていただきます。

まず、現況と課題、基本方針についてですが、出石地域では3年間に及ぶコロナ禍による観光客数の減少によりまして、地域の主要産業であります観光関連産業が大きな打撃を受けました。昨年度以降、コロナの直接的な影響はほぼなくなって、観光客数もどん底の状態は脱しましたが、そのままコロナ前の水準に戻るような力強さはありません。コロナの影響やその前からの観光ニーズの変化も考えられ、それらに対応した的確な観光振興策の展開が課題となっています。

また、これまで文化財として保護保全に力点を置いてきた複数の公共施設の老朽化や利用者数の低迷も課題となっています。

これらの課題について、行政や特定の団体だけで考えるのではなく、商工関係団体はもちろん、地域

づくり団体や市民活動グループなど、一般住民組織や学識者等の専門家とも協議、協働しながら課題解決を図っていきたいと考えています。

2024年度に実施するその具体的な事業の概要につきまして、まず1つ目には、有子山城築城450周年・出石城築城420周年事業の実施です。

今年是有子山城が築城されて450年、出石城が築城されて420年の記念の年になります。この機を捉えて多様な主体が一体となって様々な取組を実施することで観光振興の起爆剤にしようということで、昨年9月にNPO法人但馬國出石観光協会、株式会社出石まちづくり公社、豊岡市商工会出石支部、有子山城跡を登ろう会、それから出石振興局によりまして、有子山城築城450周年事業実行委員会が組織されました。

この実行委員会により、今年度中世城郭の専門家を迎えてのシンポジウムとか出石の歴史文化を周知啓発する公開講座が実施される予定であり、出石振興局としてはそれらの開催経費に対して237万円を補助することとしています。

なお、この補助金のうち、230万円については、一般財団法人自治総合センターのシンポジウム助成金を充当することとしております。

2つ目の取組としましては、出石地域にある文化財に指定されている公共施設、具体的には出石史料館、明治館、家老屋敷、永楽館につきまして、現行の設置管理条例に規定された使用目的、機能にとらわれることなく、それらの施設が観光客や地域住民により多く利用していただけるようにする方策について、昨年度から芸術文化観光専門職大学との連携事業を活用して、同大学の教員、学生により調査検討を行っております。

昨年度は、各施設の指定管理者やまちづくり関係者へのヒアリング、学生による各施設の体験調査、既存の関係研究者との意見交換等が行われ、各施設の課題や活用に向けての論点整理がされました。今年度は、昨年度調査の結果を踏まえ、各施設ごとの具体的な利活用方策を取りまとめていきたいと考えております。

なお、この事業は専門職大学への委託事業となっており、契約予算執行等は観光政策課のほうが負担をしております。

出石振興局からは以上です。

○委員長（芹澤 正志） 但東振興局地域振興課、大岸参事。

○但東振興局地域振興課参事（大岸 勝也） 26ページをご覧ください。但東振興局の取組をご覧ください。

現状と課題、基本方針につきましては、昨年と同様、但東地域の人口減少を緩やかにする取組として、地域の方々が自分事として課題に向かっておられる状況をつくり出すことと、若い世代を中心とした移住促進や交流人口拡大を柱に地域の魅力を高めていく取組を行ってまいります。

続きまして、概要です。但東振興局プロジェクト事業では、2つの取組を予定しております。

1つ目は、地域との協働による空き家利活用促進として、地域コミュニティ組織を通じて調査しました地域内の空き家情報を収集して、「飛んでるローカル」に掲載するなど、若い世代の移住、定住を促進してまいります。

2つ目として、若者会議（TANTOミーティング）を行い、若い方が気軽に集い、語り合える場の創出と、若い方の目線を取り入れた地域づくりの仕組みができるよう、行ってまいりたいと思います。

大きい2つ目、但東シルク温泉やまびこ管理では、施設全体の長寿命化を図るため、今年度長寿命化計画を策定してまいりたいと思っております。

3つ目、たんとうチューリップまつり開催事業では、昨年に引き続き地域周遊型イベントを目指し、来場者の方が但東地域を周遊していただけるよう、地域内で関連企画を展開し、市民参画と交流人口増加による地域活性化を目指してまいります。

明後日、4月12日から21日まで開催する予定といたしておりますが、天候により延期する場合がございますので、詳しくは但東シルクロード観光協会のホームページでお知らせしておりますので、ご確認いただきながらご来場いただければありがた

いなと思っております。

ちなみに、見頃は今週末、14日日曜日、15日月曜日とお聞きいたしております。

4つ目、日本・モンゴル民族博物館についてです。今年度より所管が文化・スポーツ振興課から但東振興局地域振興課に移管されました。これまでは文化活動の拠点ということで整理をさせていただいておりましたが、地域振興課に動いたことにより、地域振興の観点からも拠点施設として地域活性化の可能性を検討してまいりたいと思っております。

以上で5つの振興局の説明を終わります。

○委員長（芹澤 正志） 説明は終わりました。

質問等ございませんでしょうか。

○委員（福田 嗣久） 一つよろしいか。

○委員長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 出石振興局、局長いらっしゃいませんけど、ちょこちょこ話を聞いているのは、例の乙女の湯の関係がどういうふうになってるのかということで、実のところよくない話をずっと聞きますので、状況をちょっとお知らせいただきたいと思います。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） 3月の議会でもご質問いただいたかなと思っております。状況はそれ以降は特に変わっておりません。こちらのほうが承知しておりますのは、ボイラー等の故障で長期間ちょっと休業をするというふうなところでございます。以上です。

○委員（福田 嗣久） それぐらいしか分からへんの。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） お答えできるのはそのぐらいのことです。

○委員（福田 嗣久） 振興局としてはその辺の把握が必要だろうし、経過としては大事な市の資産を、キリンジかいな、にお渡ししたという経緯がありますので、やはりその辺をきちっと調査する必要があるんだろうなと思ってるんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（芹澤 正志） 神谷参事。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） 確におっしゃるとおりです。こちらのほうにもどうなっ

てるのかっていうふうな問合せは幾つかありますので、引き続き情報収集等には努めてまいりたいと思っております。

○委員長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） どんな情報収集しとるんか。

○委員長（芹澤 正志） 神谷参事。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） 具体的には、運営事業者のほうに定期的には情報を聞いたりとかっていうふうなことはしておりますが。

○委員長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 連絡はついてるんかな。

○委員長（芹澤 正志） 神谷参事。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） 直近で連絡取ったという話はちょっと聞いておりませんので。

○委員（福田 嗣久） 聞いておりません。なるほどね。

○委員長（芹澤 正志） はい。

○委員（福田 嗣久） 出石振興局の取組というような中で、有子山の450年、出石城の420年、大きな節目を迎えて、出石のまちとしては、いつも申し上げることでもあるんですけども、宿泊というのが非常に弱いもので、人の滞留がやはり遅い、要するにすぐ消えてしまうというような大きな問題があるんだけどね。やっぱりそこへ温泉を絡める話はずっとありましたんですけども、ああいう形で切り離されてしまって、なおかつそれがうまくいったというので、何年になるんかな、ちょっと忘れてしまったんですけども、四、五年にはなりますよね。そういう中で、うまくいってないという状況になるんで、こういう大きな節目のイベントができるときに、やはり温泉施設というのは大変大事なものでありますんで、あるいはまた市の大きな資産だったんでね。上手に活用する必要があるんだろうなということを思っておりますけども、局長いらっしゃらないんで言いにくいかも分らんけれども。

○委員長（芹澤 正志） 神谷参事。

○出石振興局地域振興課参事（神谷 謙二） 確かに貴重な財産を譲与して、温泉を運営していただくと

いう条件で譲与しておるといところでございますので、引き続きそういうふうな形で運営していただきたいという願いをしております。

○委員長（芹澤 正志） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） お答えにくいところもあるんだろうけれども、今申し上げたような経緯がありますので、やっぱりしっかりと情報把握をしながら、そしてまたどういう契約になってるのか、私もまた見させていただこうと思いますけども、中途半端なことになってしまわないようにしっかりと対応していただきたいというふうに思っておりますし、私が調べる範囲では、非常に心もとない感じがいたしております。それは調べておりますのであれですけど、心もとない感じが非常にしてるんで、契約上どういうふうになってるか、そしてやはり市が大きなお金を費やしてそれを譲渡したという経緯がありますのでね。やっぱりその辺のことはしっかりと把握すべきだろうし、今後にどう生かせるのかということも含めて先手でやっていただきたいなと思いますので、局長にも申し上げて、伝えていただきたいというふうに思います。そこまでにしときましょかね。

○委員長（芹澤 正志） そのほかございませんでしょうか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 各振興局にお願いかたがたちよっと質問するんですが、古い民家が解体をされますね。解体されるんです、民間のその人の力で。ところが、おうちによっては宝物が家の中に眠っていると。古い歴史のある家なんかだったら結構なもんがあったり、あるいはそういうものの収集が趣味であった家が解体をされた場合に、解体業者によって全部没にされてしまうということが実際にあるんですね。

というのが、先日、竹野の中竹野コミュニティに古い地図を持ち込みました。その中竹野の担当者からは大変喜ばれて、今展示されとるんですね。その地図の出どころは、同じ近所、轟のおうちからだったんですね。その家は、実は趣味でいろんな古いも

のがいっぱいあったと。ところが、いっぱいあったのに、解体をされるときに業者の方が何ぼかは取ったんだけど、ほとんどがもう捨てられたと、惜しいことしましたという発言があつてね。だから、そういう古い古民家の解体なんかの、そういう情報っていうのは、建設課よりもむしろ振興局のほうがお持ちだと思いますので、そういう家の解体のときに、解体をされる前にちょっと待ってくれという調査があつてしかるべきじゃないのかなということを思うんですが、そんな話はここでしたってしゃあないか。しゃあないですか。

○委員長（芹澤 正志） 石田局長。

○竹野振興局長（石田 敦史） 轟というふうな地名が出ましたので、恐らくはこのおうちだろうなというふうなことはちょっと予測はできるんですけども、今委員がおっしゃられるような、個人の財産のところに行政がなかなか関与して、じゃあ解体されるときにはこういったものがあるようでしたら気をつけてくださいねというふうなアナウンスをそれぞれするのかつていうふうなことがあるので、貴重なご意見としてはお聞きはしておきますけれども、やはりその辺りは個人の範疇の中で動いていただけたらなというふうに思います。以上です。

○委員長（芹澤 正志） よろしいですか。

○委員（村岡 峰男） はい。

○委員長（芹澤 正志） ほかがございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） それでは、次に、上下水道部の説明をお願いします。

上下水道部水道課、谷垣課長。

○水道課長（谷垣 康広） 水道施設の整備についてご説明させていただきます。

27ページをご覧ください。現状と課題、基本方針につきましては、昨年度と同様となっております。

概要の分で、2024年度の主な事業についてご説明させていただきます。

1つ目、佐野浄水場膜ろ過設備更新事業は、経年劣化により機能低下をいたしました膜ろ過装置の

更新をするものです。3か年の継続事業となっております。本年度が最終年度となっております。

2つ目、城山配水池耐震補強事業は、耐震強度が不足する配水池を耐震化するための補強をするものです。

3つ目、城崎・港給水区配水施設整備事業は、城崎・港給水区への安定した水道水の確保のため、国県の事業に併せて送水管を布設するものです。

4つ目、城崎大橋架替関連事業は、県が実施しています城崎大橋架替事業に伴い、配水管を移設、新設するものです。本年度は新橋への添架と取り合いを併せて行う予定としております。

5番目、大見塚受水池・配水池改築事業は、老朽化した受水池・配水池の耐震化のため、改築を行うものです。本年度は送水管の整備を行う予定としております。現状では昨年度にのり面が崩壊した部分の対策工事の準備工を行っております。事業完了としましては、2027年、令和9年を目標としております。

6つ目、老朽管更新事業は、耐用年数による更新を計画的に行うものです。本年度は寿町、竹野町鬼神谷、日高町上石、出石町町分など、管路布設替え工事を予定しております。

7つ目、浄水場等設備更新事業は、老朽化した各施設の電気設備等の更新と豊岡城崎地域の監視通報装置の更新などを予定しております。

なお、3つ目と4つ目の国県関連の事業につきましては、それぞれの進捗に大きく左右されまして大きな変更が生じることがありますので、ご理解をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

水道課からは以上です。

○委員長（芹澤 正志） 下水道課、榎本課長。

○下水道課長（榎本 啓一） 28ページの下水道整備事業について説明をさせていただきます。

現況と課題、基本方針についてですが、汚水整備事業は整備をほぼ終えており、現在ある施設の統廃合及び長寿命化を計画的に実施し、下水道事業の効率化を進めてまいります。

また、雨水整備事業は計画に対して約41.9%

の整備を終えており、今後も市の財政状況を勘案しながらも、雨水整備事業を進めるとともに、今年度は内水浸水想定区域図の作成に取り組んでまいります。

2024年度予定事業といたしましては、1つ目の統廃合事業では、戸島処理区を城崎処理区に統合する工事、三方処理区を清滝処理区に統合する工事、但東西、寺坂、水石の処理区を出石にそれぞれ統合する工事の計5処理区で工事を行う予定です。それぞれの統合工事の完了予定は、戸島、三方、但東西は2025年度、寺坂、水石は2024年度を予定しております。

次に、2の長寿命化事業では、日高中央浄化センター、城崎浄化センター及び市内のマンホールポンプの3施設で設備更新工事を実施する予定です。

また、来年度以降に改築工事を予定している豊岡市浄化センター、桃島雨水ポンプ場、京口汚水の中継ポンプ場の3施設の実施設計を予定しています。

次に、3つ目の雨水幹線整備事業では、雨水整備計画のある全区域となる38排水区1,743ヘクタールにおいて内水浸水想定区域図の作成を行う予定としております。

説明は以上です。

○委員長（芹澤 正志） 説明は終わりました。

質問等はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） ないようですので、続きまして、農業委員会事務局の説明をお願いします。

事務局長、安藤局長。

○農業委員会事務局長（安藤 洋一） 30ページをご覧ください。農地利用最適化の推進について説明いたします。

まず、現況と課題としましては、農業委員会の役割は、農地法に基づく許認可事務に加え、農地等の利用の最適化の推進が重要と位置づけております。引き続き担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進に取り組む必要があるというふうに考えております。

基本方針は、昨年度と同様で、農業委員、農地利

用最適化推進委員の連携の下、農業者、地域の意向を確認しながら取り組んでまいります。

概要について説明いたします。1から5まで示しておりますが、4番以外は昨年度と同様の内容となっています。4番の地域計画の策定に必要な目標地図素案の作成を今年度追加しております。地域計画を策定するに当たり、農地利用の方針を反映し、耕作者を表示した目標地図素案の作成を行っていきます。

また、計画策定が円滑に進められるよう、委員による各集落での働きかけや協議への参加を行っていきます。

説明は以上です。

○委員長（芹澤 正志） 説明は終わりました。

質問はございませんか。

前野委員。

○委員（前野 文孝） 2点お伺いしたいと思います。

まず1点は、遊休農地に関しての所有者に対する意向調査をされてると思うんですが、去年の年末ですかね。今後のスケジュールとか、こういった状況が出てくるのかという、その辺の見込みなどを教えてください。

それともう1点は、農地集約の、地域計画をつくって、農地をいろんな方に、大規模農家のほうに集約されるような形になると思うんですけども、実際見てると、私は日高町にいますけども、出石の方が来られて、わざわざトラクターを運んで耕作されたりという、そういうことが散見されていて、大規模農家に聞くと、何とかそれを地域に近いところでまとめていきたいというふうにおっしゃられるんですけども、そういったことというのは、農業委員会のほうで何か視野に入れられて動いていらっしゃるのか、この2点だけお願いします。

○委員長（芹澤 正志） 安藤事務局長。

○農業委員会事務局長（安藤 洋一） まず1点目の利用意向調査のスケジュールでございます。毎年秋頃、10月、11月頃から準備をしまして、11月の頭から12月の中旬ぐらいまでに調査書の回収、要は農地の所有者のほうから調査書が送られてき

ます。もしくは委員の皆さんが回収して、それを事務局のほうに持ってこられると。それを受けて事務局でその内容を整理し、中間管理事業、要は農地バンクですね、農地バンクの活用を希望される所有者の方については、その内容について県の農地バンクのほうに通知をします。それで、県のほうが、農地が農地バンクとして利用権の設定を行うことができる条件を満たしているかどうかを確認した上で進められていくということになります。

もう1点、地域計画のことについてです。確かに遠方から各集落というか地区のほうに入って農地を守っておられるというふうな状況も各地区で見受けられますが、農業委員会としましては、地元の意向を確認することをまず第一と考えています。地元の農会長もしくは区長、それから地元の役員さん方がどのようにお考えであるかということです。

農業委員もしくは推進委員の方々は、担い手の情報については各地域で十分把握、理解はされているんですが、今、遠方から入っておられる担い手の農業者の方がどのような意向を持っておられるか、まずその突っばねるということはできないのかなというふうに考えておりますので、その辺りは十分意向なり確認をして、地元の意向も確認をして、地域計画、目標地図の素案のほうを作成していくということになってようかなと思っております。

○委員長（芹澤 正志） 前野委員。

○委員（前野 文孝） よく分かりました。確かに地域の意向を無視することはできないとは思いますが、もう足らない状況にあって、そんなことも少し視野に入れながら、実際に受け手のほうともうまく議論できながらそういったことを解消できるかなと思うので、今後ともぜひ努力ください。以上です。

○委員長（芹澤 正志） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） それでは、ないようですので、事務概要についてはこの程度でとどめておきたいと思います。

この際、当局の皆さんから何かご発言はございま

せんでしょうか。

ないようでしたら、当局の皆様は退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

それでは、続きまして、（２）の委員会重点調査事項についてを議題といたします。

参考までに、現行の調査事項を別紙１に記載しております。３月の委員会で確認した内容を記載しておりますので、この件について特にご意見はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） 特にないようですので、現行のとおりとし、変更しないことに決定いたしました。

次に、（３）管外行政視察についてを議題といたします。

日程は、皆さんには事務局を通じてお知らせしております５月１５日の水曜日、１６、１７の金曜日までで決定しております。１日目が長野市の信州地域デザインセンターの視察で、宿泊は長野市内を予定しております。もう予約は済んでおります。２日目は、松本市へ移動いたしまして、１０時から松本市役所で松本市の観光施策について研修を受けます。その後、松本十帖に、ここはどういうふうな形で行くかはちょっとまだ今検討中ですが、視察をしまして、夜は松本市内に宿泊予定となっております。

皆様にはホームページ等でまたご確認いただきまして、質問事項を考えていただいて事務局まで提出をよろしくお願いいたしますと思います。

また、食事するところにつきましても、こちらのほうである程度探してめどはつけておりますけれども、特にここという希望がございましたらまたご連絡をいただきたいと思います。

（〔お任せします〕と呼ぶものあり）

○委員長（芹澤 正志） ありがとうございます。

暫時休憩します。

午前１１時２２分休憩

午前１１時２５分再開

○委員長（芹澤 正志） それでは、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

視察については以上、特にございませんということです。

5番のその他です。

全体を通じて委員の皆さんから特にご発言はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（芹澤 正志） 特にないようでしたら、これで建設経済委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前 1 1 時 2 6 分閉会
